

第92期定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結計算書類の連結注記表

計算書類の個別注記表

第92期（平成29年1月1日から平成29年12月31日まで）

帝国繊維株式会社

法令及び当社定款の定めに基づき、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.teisen.co.jp/>）に掲載することにより、株主の皆様にご提供しているものであります。

連結注記表

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社　：帝商(株)、キンパイ商事(株)、テイセン産業(株)、(株)テイセンテクノの計4社
非連結子会社　：該当ありません。

(2) 持分法の適用に関する事項

関連会社2社のうち、(株)麻業会館については持分法を適用しております。

(株)富士については、当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、重要性がないため持分法を適用していません。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度末日と、連結会計年度末日は一致しております。

(4) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

1) 有価証券

イ. 満期保有目的の債券　償却原価法

ロ. その他有価証券

・時価のあるもの

連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

・時価のないもの

移動平均法による原価法

2) たな卸資産

移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

3) デリバティブ

時価法

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

1) 有形固定資産

定率法

ただし、次に掲げる減価償却資産については定額法。

イ. 当社の賃貸用資産に係る建物及び構築物

ロ. 平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）

ハ. 平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物

2) 無形固定資産

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

③ 重要な引当金の計上基準

1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えて、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

2) 役員賞与引当金

役員に支給する賞与の支出に備えるため、当連結会計年度末における支給見込額に基づき計上しております。

④ 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

⑤ 重要なヘッジ会計の方法

1) ヘッジ会計の方法

為替予約等が付されている外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引について振当処理を行っております。

2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・為替予約

ヘッジ対象・・・外貨建金銭債権債務、外貨建予定取引

3) ヘッジ方針

外貨建金銭債権債務に係る為替変動リスクを軽減する目的で為替予約取引を行っております。

4) ヘッジの有効性評価の方法

デリバティブ取引の実行にあたり、ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件がほぼ一致しており、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動等を相殺することができることを確認しております。

また、予定取引については、実行可能性が極めて高いかどうかの判断を行っております。

⑥ 消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

2. 会計方針の変更に関する注記

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当連結会計年度から適用しております。

3. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額	5,859,041千円
(2) 担保に供している資産	
建物及び構築物	719,615千円
土地	24,381千円
合計	743,996千円
上記に対応する債務	
預り保証金	617,656千円
(1年以内返済予定預り保証金を含む)	

4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当連結会計年度末における発行済株式総数	
普通株式	27,170,400株
(2) 当連結会計年度中に行った剰余金の配当に関する事項	
① 配当金支払額等	
平成29年3月30日開催の第91期定時株主総会決議による配当に関する事項	
・ 配当金の総額	785,372千円
・ 1株当たり配当金額	30円
・ 基準日	平成28年12月31日
・ 効力発生日	平成29年3月31日
② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生が翌期になるもの	
平成30年3月29日開催予定の第92期定時株主総会決議による配当に関する事項	
・ 配当金の総額	1,049,109千円
・ 1株当たり配当金額	40円
(注) 配当金の内訳 普通配当35円 記念配当5円	
・ 基準日	平成29年12月31日
・ 効力発生日	平成30年3月30日
(3) 当連結会計年度末の新株予約権	
目的となる株式の種類及び数	
普通株式	409,000株

5. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、短期的な預金等安全性の高い金融資産で運用しております。また、資金調達については、必要な資金を銀行等金融機関からの借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

② 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。また、その一部には海外取引に伴う外貨建てのものがあり、為替変動のリスクに晒されておりますが、為替予約をヘッジ手段として利用しております。

有価証券及び投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクや発行体の信用リスクに晒されておりますが、定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、継続的に保有状況の見直しを行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は半年以内の支払期日です。また、その一部には輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替変動のリスクに晒されておりますが、為替予約をヘッジ手段として利用しております。

③ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価等には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成29年12月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。(注) 2. 参照
(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	6,777,621	6,777,621	—
(2)受取手形及び売掛金	10,723,769	10,723,769	—
(3)有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	11,999,990	11,999,990	—
その他有価証券	24,570,857	24,570,857	—
資産計	54,072,238	54,072,238	—
(1)支払手形及び買掛金	4,710,017	4,710,017	—
(2)長期借入金(返済1年以内)	44,200	44,200	—
(3)未払法人税等	733,735	733,735	—
(4)長期借入金	155,800	155,800	—
(5)預り保証金 (1年以内返済予定を含む)	859,899	857,650	△2,249
負債計	6,503,652	6,501,403	△2,249
デリバティブ取引 ※	37,885	37,885	—

※ デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で表示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。また、譲渡性預金は短期であるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金並びに(3) 未払法人税等

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 長期借入金(返済1年以内)及び(4) 長期借入金

当該借入金は、変動金利によるものであり、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。

(5) 預り保証金

これらの時価の算定は、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に準じた利率で割り引いた現在価値により算定しております。なお、1年以内返済予定預り保証金(60,753千円)は流動負債の「その他」に含まれております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引の時価は、期末時点での取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式 ※1	155,620
長期未払金 ※2	323,370

※1 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

※2 役員退職慰労金の打切り支給に係る債務であり、当該役員の退職時期が特定されておらず時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

6. 賃貸等不動産に関する注記

(1) 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社では、栃木県その他の地域において、事業用土地、店舗用建物等を有しております。

(2) 賃貸等不動産の時価等に関する事項

(単位：千円)

連結貸借対照表計上額	時価
1,098,934	9,445,840

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度末の時価は、社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額によっております。

また直近の不動産鑑定評価を行った時から、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていない場合には、当該評価額や指標を用いて調整した金額によっております。

7. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額

1,854円49銭

(2) 1株当たり当期純利益

109円99銭

8. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

個別注記表

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 満期保有目的の債券 償却原価法

② 子会社及び関連会社株式 移動平均法による原価法

③ その他有価証券

1) 時価のあるもの 事業年度末日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

2) 時価のないもの 移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

移動平均法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(3) デリバティブ等の評価基準及び評価方法

デリバティブ 時価法

(4) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産 定率法

ただし、次に掲げる減価償却資産については定額法。

1) 賃貸用資産に係る建物及び構築物

2) 平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)

3) 平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物

② 無形固定資産 定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(5) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えて、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 役員賞与引当金

役員に支給する賞与の支出に備えるため、当事業年度末における支給見込額に基づき計上しております。

③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(6) ヘッジ会計の方法

- ① ヘッジ会計の方法 為替予約等が付されている外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引について振当処理を行っております。
- ② ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段・・・為替予約
ヘッジ対象・・・外貨建金銭債権債務、外貨建予定取引
- ③ ヘッジ方針 外貨建金銭債権債務に係る為替変動リスクを軽減する目的で為替予約取引を行っております。
- ④ ヘッジの有効性評価の方法 デリバティブ取引の実行にあたり、ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件がほぼ一致しており、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動等を相殺することができることを確認しております。
また、予定取引については、実行可能性が極めて高いかどうかの判断を行っております。

(7) 消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

2. 会計方針の変更に関する注記

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 関係会社に対する短期金銭債権	5,878,394千円
(2) 関係会社に対する短期金銭債務	569,285千円
(3) 有形固定資産の減価償却累計額	5,370,206千円
(4) 担保に供している資産	
建物	676,234千円
構築物	43,380千円
土地	24,381千円
合計	743,996千円
上記に対応する債務	
預り保証金	617,656千円
(1年以内返済予定預り保証金を含む)	

4. 損益計算書に関する注記

(1) 関係会社に対する売上高	9,611,713千円
(2) 関係会社よりの仕入高	1,731,785千円
(3) 関係会社との営業取引以外の取引高	104,695千円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の数	
普通株式	942,675株

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 of 主な原因別の内訳

(1) 流動の部

繰延税金資産	
未払事業税	27,437千円
たな卸資産評価損	80,563千円
未払役員賞与	27,761千円
資産除去債務	11,108千円
その他	53,124千円
繰延税金資産合計	199,996千円
繰延税金負債	
繰延ヘッジ損益	11,600千円
繰延税金負債合計	11,600千円
繰延税金資産の純額	188,395千円

(2) 固定の部

繰延税金資産	
ゴルフ会員権評価損	1,837千円
関係会社株式評価損	86,430千円
退職給付引当金	4,317千円
長期未払金	99,015千円
株式報酬費用	137,947千円
投資有価証券評価損	34,654千円
資産除去債務	15,131千円
その他	6,306千円
繰延税金資産小計	385,641千円
評価性引当額	△363,692千円
繰延税金資産合計	21,948千円
繰延税金負債	
圧縮記帳積立金	112,608千円
その他有価証券評価差額金	7,339,814千円
繰延税金負債合計	7,452,423千円
繰延税金負債の純額	7,430,474千円

7. 関連当事者との取引に関する注記

属性	会社等の名称	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容及び 業種又は職種の 範囲	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
					役員等の 兼任	事業上の 関係				
子会社	帝商株式会社	85,000	防災及び 繊維製品 の販売	100	2名	営業取引	製品の売上	5,205,591	受取手形及び 売掛金	4,050,563
							製品の仕入	136,420	買掛金	3,654
							—	—	未払金	72
子会社	キンパイ商事 株式会社	50,000	防災及び 繊維製品 の販売	100	2名	営業取引 不動産の 賃貸	製品の売上	4,367,477	受取手形及び 売掛金	1,817,906
							製品の仕入	144,629	買掛金	11,751
							不動産賃借料	226	—	—
子会社	テイセン産業 株式会社	123,300	繊維製品 の縫製、保 険代理業	100	1名	営業取引	製品の売上	18,132	受取手形及び 売掛金	8,913
							製品の仕入	53,604	買掛金	14,096
子会社	株式会社テイ センテクノ	30,000	防災車輛・ 機器の製 造、保守	100	1名	営業取引 不動産の 賃貸	製品の売上	3,712	受取手形及び 売掛金	247
							賃貸料収入	16,800	その他の 流動資産	763
							製品の仕入	1,397,130	買掛金	522,887
							—	—	未払金	16,822

- (注) 1. 取引金額には消費税等は含まず、期末残高には消費税等を含んで表示しております。
 2. 価格その他の取引条件は、市場実勢価格を提示し、価格交渉の上で決定しております。
 3. 不動産の賃貸に関しては、減価償却費等の総原価を勘案して賃貸料金額を決定しております。

8. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 1,671円14銭
 (2) 1株当たり当期純利益 95円69銭

9. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。